



病気になる原因から、農場を守る

冬場に気をつけたいバイオセキュリティ（防疫対策）

国内の豚コレラ、中国のアフリカ豚コレラが拡大する中、全国の農場で病原体の侵入・まん延を防ぐためのさまざまな取り組みが行われている。飼養衛生管理基準の遵守が前提となる防疫対策について、今回は冬場特有の備えを紹介する。

全農飼料畜産中央研究所 養豚研究室

効果的な消毒を行うために

病原体を侵入させないという点において、農場や豚舎に入る際には、専用の長靴に履き替え、踏込消毒槽を用いた長靴の消毒を行う必要がある。

一般的に消毒剤は、濃度が適切で作用時間が長く、作用温度が高い（分子の運動エネルギーが大きい）と消毒効果が強い。濃度は、適切に使用されている場合が多いが、作用時間と作用温度については十分確認されていないケースが散見される。

特に消毒液の温度が20℃を下回る冬場においては、気温の低下とともに消毒効果は減弱するため注意が必要である。作用時間が長いほど消毒が進むため、消毒

の際には長靴が濡れる程度に踏み込むだけでなく、消毒槽に立ち、じっと長靴を浸け込むと十分な効果が期待される。

加えて、寒冷地において消毒槽が凍結してしまう場合は、消毒液に車のウォッシャー液などの不凍液を加え、凍結を防いでいる事例もある。

消石灰利用の意義

同様に温度が低い場合、水洗等で十分に長靴の汚れを落とした後、一般的な細菌やウイルスに効果的とされる消石灰を用いた踏込消毒槽で消毒する事も有効である（写真1）。

なお、消石灰は大気中の二酸化炭素と反応して、消毒効果が弱

まってしまうため、毎日の交換を心がけたい。

防鼠対策

野外の気温が下がると、暖かい環境や食料を求めてネズミなどの野生動物が豚舎内に侵入する。ネズミの侵入は、サルモネラ症、豚赤痢などの感染症の発生だけでなく、飼料の食害、豚舎や電気機器の破損による経済的な被害をもたらす（写真2）。

豚舎へのネズミの侵入、定着を防ぐためには、①隠れ家を作られないよう豚舎内外の整理整頓を行う ②毒餌、罠を設置する ③餌となるゴキブリ等の虫を豚舎の中で繁殖させない ④侵入経路となる豚舎の隙間の補修を行う ⑤豚舎周辺の草刈りを行い、ネズミを豚舎に寄せつけない等の対策が有効であり、日頃から紙袋の破損・糞・足跡・豚舎の破損等に注意が必要である（写真3）。

写真1. 消石灰を用いた踏込消毒槽



写真2. ネズミによる飼料の食害



写真3. ネズミによる豚舎への被害

